

体が不自由な弟と共に

一宮市立千秋南小学校六年

安藤 瑠南



私の弟は、歩く事が出来なくて、言葉を話す事も、一人で座る事も出来ません。

生まれた時は、健康な赤ちゃんだったけれど、生後二ヶ月の時にけいれんが止まらなくなり入院生活が始まりました。その時二才だった私は、お母さんとはなればなれになることがいやでいっぱい泣いていたそうです。私もさみしかった事を覚えています。

健康な赤ちゃんは、ほ乳びんからミルクを飲むことができるけれど、弟は、むせて上手に飲んだり、り乳食を食べたりできず、飲みこんだ物が肺に入ってしまったって誤えん性肺炎になってしまいます。食べれないなんてとてもつらいことです。お腹がすいているのにむせて食べれないのですごく泣いていたそうです。

入院先の病院で、鼻から胃までチューブを通してミルクを流しこむようになってからは、命の危険はなくなり栄養をとることができるようになりました。

病院の先生に「脳がまひしていき、二才までしか生きれないのではなにか。」と言われお父さん、お母さんは悲しみでいっぱいだったそうです。

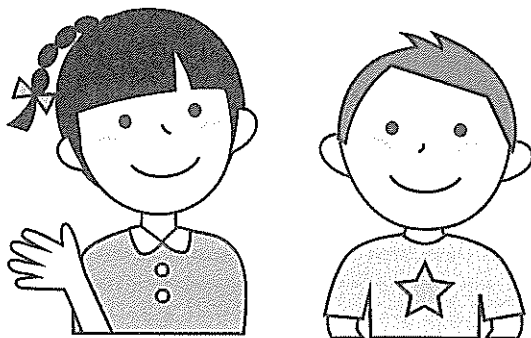
私は、弟が生きている今を少しでも輝かせ笑顔を増やそうと今もがんばっているお父さん、お母さんの姿がすごいと思っています。二才の時初めて声を出して笑った時には、家族がお祭りさわぎするくらい喜びま

した。私は、弟の笑顔を見ることがうれしくて、寝る前に本を読んであげました。以前はけいれんで視線が合わずどこを見ているかよく分からなかったけれど、今では絵本の絵を見ていることがうれしくてたくさん本を読んであげたくります。

お母さんはまひしている手足が少しでも動くようにマッサージの勉強をして弟に毎日オイルを使ったマッサージを行っています。私もやり方を教えてもらって弟にマッサージを始めました。弟の手足にふれた時、とてもやせていて骨が折れてしまいそうでこわいくらいでした。そして、足の裏をおすとカタカタピクピクして、けいれんが起きたのかと驚いたこともありました。お母さんは、障がいのある子にリトミックやマッサージを児童デイサービスで行ったり、歩けない子たちのサークルを作ったり、活動しています。弟の脳にいい事は、何でもチャレンジする所が私は尊敬しています。私もし病気の子を産んだらお母さんのように前向きに過ごしていけるか分かりません。

私の家族には「初めて記念日」がたくさんあります。弟が初めておもちゃをさわった日「うーん」と返事をした日、声を出し笑った日、歩行器を使って前に足が出た日、鼻のチューブが取れた日、テレビをじーっと見ていた日、あたりまえの事が幸せに感じます。弟が入院すると、家族がばらばらになってしまうから一つ屋根の下に家族がそろって喜ぶです。

私は、弟が少しでも成長できるように話しかけたり、お母さんの手伝いをしたりしようと思います。九才になった弟は、ミキサーでトトロにしたご飯を食べられるようになりました。言葉を話せないのは少しさみしいけれど、笑っていれば楽しいだろうなと表情から幸せが伝わってきます。今チャレンジしたい事を、今行わないときと後悔するのでお父さん、お母さんのように今を全力で生きたいと思っています。手足が不自由で自分では何も出来ない弟からたくさんのお話を学んでいます。私は、弟のように体が不自由な子たちの手となり足となるような優しい言葉を



かけてはげましていきたいです。今どん底の人や苦しい気持ちの人たちに願いは届く、奇跡は起きると伝えたいです。これからも弟の笑顔が増えることを願っています。